

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	大塚 由貴	学校名	埼玉 都・道・府・ 県 立 杉戸 高等学校
担当教科等	地理 B	対象学年 (人数)	2年3組 (40名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和元年 12月 ~ 12月 (4 時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地理B		
2. 単元(活動)名：発展途上国の都市・居住問題		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「SDGsの視点から世界と日本の課題を捉え、自分にできることを考えよう」 単元目標：発展途上国と先進国が抱える問題の特徴を捉え、問題解決への取り組みを考えてみよう。 関連する学習指導要領上の目標：世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・世界及び日本が抱えている課題を理解できる。 ・資料から適切な情報を読み取ることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・得た情報をもとに自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる。 ・自分の考えを自分の言葉で書くことができる。
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じ、自分なりにさらに疑問をもつことができる。 ・協力して課題解決にあたらうとしている。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】 この単元は、世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、その分布や動向などについて考察させるとともに、世界の人口、都市・村落とかかわりの深い現代世界の人口、居住・都市問題を大観させることを主なねらいとしている。</p> <p>【単元の意義】 人口が増加しつつ経済発展をしているザンビアについて学ぶことで、日本もかつて同じような状況を経験していることに気づかせる。その気づきから、世界が抱えている課題を自分ごととして捉え、課題解決のために今自分が何をすべきか考えることができるようになる。</p> <p>【児童／生徒観】 普通の授業から対話を取り入れた授業を展開しているため、積極的なグループワークが行われると予想される。アジアなど身近な地域への興味や知識はあるが、アフリカなど遠い地域への興味・関心は低く、知識も少ない。</p> <p>【指導観】 人口・経済規模の異なる二か国の抱える課題について理解し、「SDGs」の視点から解決策を考えられるようにしたい。また、生徒自身が「なぜそのように考えたのか」という理由・根拠を説明できるよう指導を行いたい。</p>
--	--

6. 単元計画 (全4時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGsについて知る	<ul style="list-style-type: none"> 2001～2015年の15年間で世界がどのように変化したのか理解する。 SDGsが誕生した背景を理解する。 SDGsについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> ワークシートのA～Fが人口、5歳児未満の死亡率、成人識字率、女性の国会議員数の割合、1人あたりの二酸化炭素排出量、ジニ係数どれに対応しているか予想する。 グループ内で考えを共有した後、確認。その後、2001年から2016年までの15年間でA～Fの指標がどのように変化したか捉える。 2016年～2030年の15年間で世界がどのように変化するか予想する。 ワークショップからSDGsが誕生した背景を学び、SDGsについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標 — SDGs — アクティビティ (Save the Children)より。 「15年前の世界と未来(2030年)の世界を考えよう」
2	ザンビアの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 日本と異なる自然環境、文化について理解する。 写真からザンビアの地方と都市の差を読み取ることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ザンビアの位置を地図帳で探し、白地図内に色をつける。 ザンビアの第一印象を書く。 クイズ形式でザンビアについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> 人口、面積、自然環境、食環境、文化など 地方と都市の差を写真から読み取る。 ザンビアの第二印象(学んだことをもとに)を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント教材 <ul style="list-style-type: none"> 地図入り クイズ形式 パワーポイント <ul style="list-style-type: none"> 解説 現地で撮影した写真

3 本時	発展途上国の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 人口増加による都市化とその影響について理解する。 医療、産業と環境、教育の分野で抱えている課題を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①知識構成型ジグソー法を利用してザンビアの抱えている課題を知り、課題解決のために取り組むべきSDGsの優先順位を考える。 ②SDGsの17の目標を優先順位の高いものから並べ、ダイヤモンドランキングを作成する。 ③作成したダイヤモンドランキングをもとに、なぜそう考えたかを踏まえて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●共通資料 ●エキスパート資料 (A)教育 (B)医療 (C)産業と環境 (D)都市化 ●ダイヤモンドランキングのシート ●SDGs シール
4	先進国の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 地方の人口減少、都市への人口集中により日本が抱えている課題を理解する。 日本とザンビアのダイヤモンドランキングを比べて、人口増減や経済状況に応じて異なる課題が生じることを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①知識構成型ジグソー法を利用して日本の抱えている課題を知り、課題解決のために取り組むべきSDGsの優先順位を考える。 ②SDGsの17の目標を優先順位の高いものから並べ、ダイヤモンドランキングを作成する。 ③作成したダイヤモンドランキングをもとに、なぜそう考えたかを踏まえて発表する。 ④ザンビアと日本のダイヤモンドランキングを比べて気づいたことを発表・共有する。 ⑤授業内容を踏まえて、自分にできる取り組みを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●共通資料 ●エキスパート資料 (A) (B) (C) (D) ●ダイヤモンドランキングのシート ●SDGs シール

<p>7. 本時の展開 (3 時間目)</p> <p>本時のねらい：人口が増加し、経済規模も日本と異なるザンビアが現在抱えている課題を知り、その課題を解決するために優先して取り組むべきSDGsは何かを考えることができる。また、その理由を説明することができる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題把握(一斉授業形式) 「ザンビアの課題解決のためにSDGsの優先順位を考えよう」 ○個人の考え・理由をワークシートに記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤモンドランキングの説明 ・2～3人に発表してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・共通ワークシート
展開 活動① (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○個人でエキスパート資料を読み、各問いに答える。(知識構成型ジグソー法) ①ザンビアの抱える課題 ②その課題に関するSDGs 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・キーワードの抜き出しでもかわまないで、設問全てに答えるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●エキスパート資料 (A)教育 (B)医療 (C)産業と環境 (D)都市化

活動② (10分)	○エキスパート活動 ・エキスパートA～Dごとに3～4人でグループを作り、情報を共有する。	・新たな情報があればエキスパート資料に記入するよう指示する。 ・机間指導をし、話し合いが活発になるよう助言する。 (特にSDGsの視点)	・グループ作成指示 → パワーポイント ・エキスパート資料
活動③ (25分)	○ジグソー活動 ・エキスパート資料A～Dでグループを作り、情報を共有する。 ・本時の課題について考え、ダイヤモンドランキングを作成する。	・机間指導 ・必要があればその都度、全体で資料に関する補足説明をする。 ・自分たちの考えたランキングの説明ができるよう指示する。	・グループ作成指示 → パワーポイント ・各エキスパート資料 ・ダイヤモンドランキング用シート ・SDGsシール
活動④ (5分)	○発表 ・作成したランキングをもとに、なぜそのような優先順位をつけたのか説明する。	・2～3グループに発表してもらう。 ・聞く姿勢など指導する。	・共通資料 ・ダイヤモンドランキングのシート
まとめ (5分)	○もう一度最初の問いについて個人で考える。 ・優先順位5位までを、理由と共に答える。	・机間指導	・共通資料

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・授業態度(学びに向かう力)
- ・発言(思考力・判断力・表現力)
- ・プリント(表現力・知識)

9. 学習方法及び外部との連携

本時の学習目的が「ザンビアの課題を知り、課題解決をするための優先順位を考える」という内容のため、より多くの課題を知り、様々な意見を聞いたうえで考えてほしいと思い知識構成型ジグソー法を利用した。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

校内では、同じ科目を担当している教員と話し合いをし、同じ授業を展開していただいた。また、研究授業では教科を超えた多数の教員に参観していただき、取組内容を知ってもらった。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>各エキスパート資料の内容が濃く、資料の読み取りに時間がかかってしまった。そのため、授業時間内に発表まで辿り着くことができなかった。また、ダイヤモンドランキングを作成していくなかで、話し合いは活発に行われていたものの、その話し合いをもとに作成していくグループもあれば、エキスパート資料に出てきたSDGsを中心に多数決で優先順位を決めていたグループもあった。その結果、早くランキング作成が終わってしまい、時間を持て余してしまったグループがあったので改善が必要である。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>日本のエキスパート資料をなるべくザンビアと同じ分野(医療や都市化など)で作成した。そのため、生徒が考えたランキングでは貧困に関しては優先順位が低くなった。近年、日本でも「相対的貧困」が話題になっている。この話題をエキスパート資料に組み込むことで、また違ったランキング表になり新たな気づきが出るのではないかと思う。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>生徒の感想文を読んでもみると、「現地に行って実際に見てみたい」、「他の国(または高緯度の先進国など)ではどのような課題を抱えているか知りたい」と書いている生徒が多く見受けられた。そこから今回の授業を通して、他国・世界が現在抱えている課題について興味・関心が出てきたのではないかと思う。</p> <p>最大の成果は、研究授業に多数の先生方が来てくれたことである。研究授業後の授業も見学に来てくれた先生がおり、「SDGs」に興味を示す教員も出てきた。なかには、授業実践後に図書室で見つかったとSDGsのロゴが掲載されている講演会のチラシのコピーを持ってきて、クラスに配ろうと思っていると言ってくれた先生もいた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>【 授業を通しての感想・もっと知りたいこと 】</p> <p>①ザンビアにおける課題と日本における課題では大きな違いがあった。ザンビアで残っている課題の多くは、日本が過去に達成しているものだった。日本がザンビアにしてあげるとは経済的な援助だと思う。そして、いつかザンビアがクリアしている課題に日本が直面したとき、ザンビアから何かしらの援助をもらおう。そんな愛のある世界になれば良いと思う。</p> <p>②ザンビアの現状がよく分かった。日本では当たり前のことがザンビアでは当たり前じゃないことに驚いた。でも、貧困を無くすというというのはとても難しいということも考えさせられた。質の高い教育がないと生産性は上げられないが、質の高い教育にはお金が必要。とても難しい問題だと感じた。</p> <p>③ザンビアの生活がどれほど日本と違うのか、現地に行って直接触れてみたいと思いました。それに、ザンビアの授業がどんな感じで行われているのかももっと知りたいと思いました。</p> <p>④貧困で悩んでいる地域がほかにもたくさんあると思うので、そういった国同士でどのような点が共通して言えることなのか、またどのような違う悩みがあるのかについて比べてダイヤモンドランキングを作りたいと思った。</p>

15. 授業者による 自由記述	<p>今後飛躍的に発展していけようアフリカの現状を見ることができたのは、私にとって大きな財産となった。また、滞在期間は短かったが、五感から得た情報を活用して考えることの重要性を改めて実感した。そして現地で交流した日本人・現地の方々、そして一緒にザンビアへ行った他県の教員との出会いを大切にしたい。</p> <p>これからの社会において、国際理解は大切である。だからこそ、国際理解・開発教育を今年で終わらせず、次年度以降も続けていきたい。それが今回の研修に参加した私の「今できること」であると思う。</p>
--------------------	--

参考資料：

- ①先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標・SDGs-アクティビティ集
https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs_activity/
- ②国や分野の垣根を越え ザンビアの鉛汚染に挑む
https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2019/201908/pdf/2019_08_p03-07.pdf
- ③在ザンビア日本大使館ホームページ
https://www.zm.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
- ④ザンビアにおける女子教育の阻害要因
https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/34118/2014101620100932126/JICE_2-2_55.pdf
- ⑤JICA ザンビア事務所で頂いた資料



授業風景

↓生徒が作成したダイヤモンドランキング

